

## 氷ノ山のコシノサトメシダ?

林 美嗣 (植物リサーチクラブの会・ひとはく地域研究員)

### はじめに

2000年9月3日に、氷ノ山(兵庫県養父市)でメシダ属のコシノサトメシダ (*Athyrium neglectum* Serizawa) とシイバサトメシダ (*A. neglectum* subsp. *australe* Serizawa) とされる個体を採集した。両種の分布は、それぞれ北陸地方~北海道、四国・九州とされており (芹沢 1985)、ともに兵庫県では報告がない。そこで、採集した個体の形態や生育地の環境を調査し、両種が兵庫県にも産出するのかどうかを検討した。また、2010年現在の氷ノ山での生育状況についても紹介する。

### 方法

氷ノ山で採集した個体をさく葉標本にし、形態を肉眼とルーペで観察した。また、氷ノ山での生育環境や生育状況を記録した。

### 結果

#### 採集した個体の形態

##### 1. コシノサトメシダ (?)

葉身は長さ 26cm、幅 17cm、葉の切れこみは浅く、小羽片は浅裂程度。中部羽片の最下小羽片はほぼ対生で羽片の柄は明瞭。ソーラス (孢子囊群) は 3mm に達する。包膜縁は欠刻があるが、毛裂することはない。葉柄下部りん片は被針形で淡褐色 (図 1)。

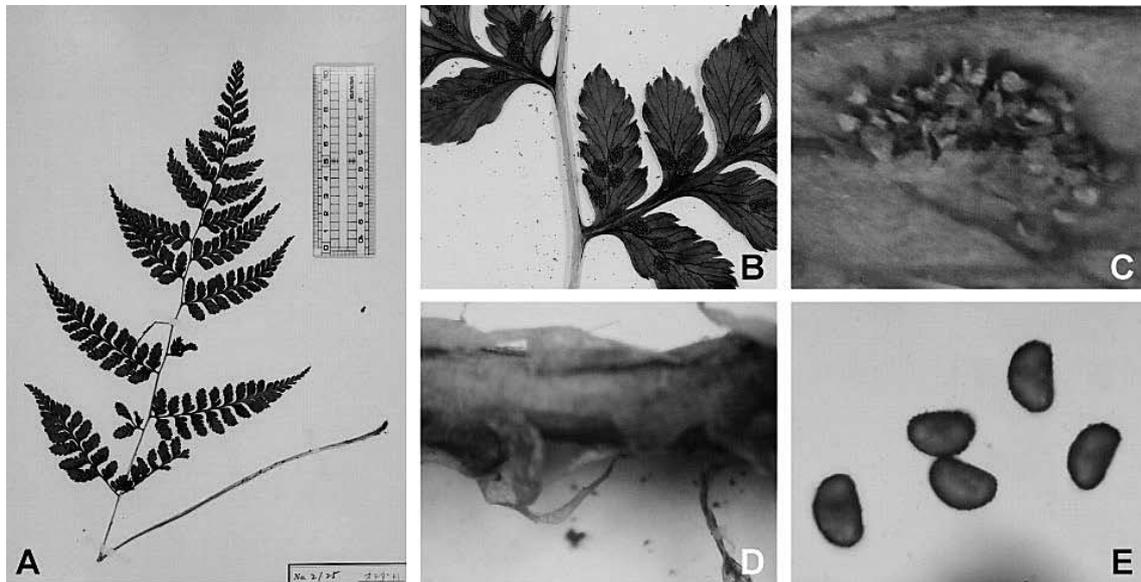


図1 コシノサトメシダと思われる個体の形態。A: 葉, B: 中部羽片, C: ソーラス, D: 葉柄基部りん片, E: 孢子。

##### 2. シイバサトメシダ (?)

葉身は2回羽状、長さ 19cm、幅 9cm。先端はとがる。葉はやや二形性。小羽片は浅裂程度、先端は鈍頭ないし円頭で、基部は羽軸に沿着する。しかし、中部羽片の最下小羽片がやや内先になる (図 2)。

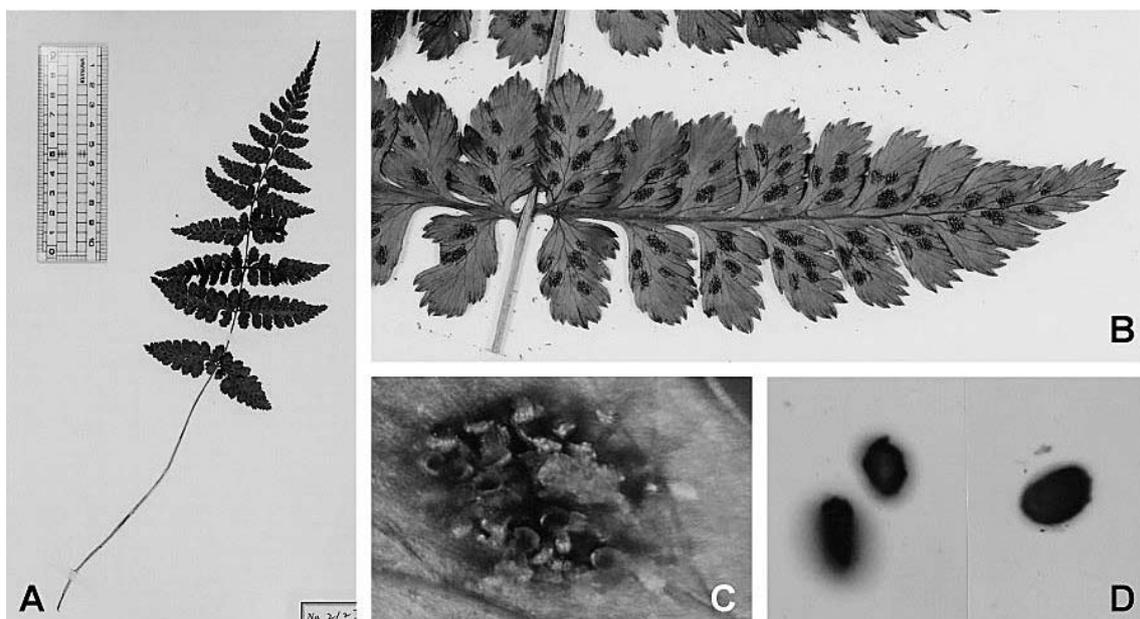


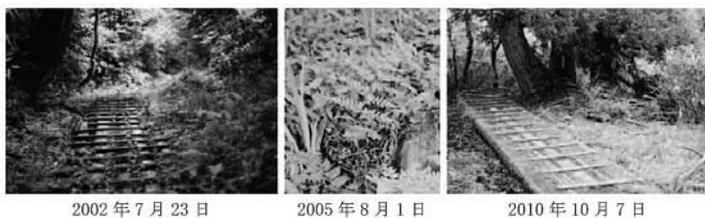
図2 シイバサトメシダと思われる個体の形態。A：葉，B：中部羽片，C：ソーラス，D：孢子。

### 生育地の環境

標高 1,400 m 付近。5 月ごろまで雪が残る。登山道でやや開けたところ。腐植質が多く、やや湿った木道脇や林縁に生育していた。

### 2010 年現在の生育状況

2005 年 8 月には、採集地点付近にサトメシダやイヌワラビの仲間（メシダ属）はあちらこちらに生育していたが、再度観察するため 2010 年 10 月に訪れた際には、メシダ属植物は殆ど見られずコバノイシカグマ（※注）だけが目立った（図 3）。近年、採集地周辺でシカの出没が目撃されていることから、



2010 年 10 月 7 日にこれらのシダが見られなかったのは、シカに食べられたためと思われる。

（※注：シカが食べないシダの一種）

図3 生育状況の変化

### まとめ

氷ノ山のコシノサトメシダ、シイバサトメシダと思われる個体の採集地の環境は、文献に記載されている生育地の環境と類似しており、採集した個体はコシノサトメシダ、シイバサトメシダである可能性がある。しかし、形態的には兩種とサトメシダとの相違点が把握しきれなかったため、新産地報告の為に今後典型的な個体（例えば北陸産のコシノサトメシダ、九州産のシイバサトメシダ）と比較し、更なる検討が必要である。

今後も研究が必要であるにもかかわらず、肝心の氷ノ山集団がシカの被害を受けていた。研究が進む前に絶滅してしまうのではないかと危惧している。

### 文献

芹沢俊介（1985）. 日本産シダ植物雑記（4）. 植物地理・分類研究 33（2）:73－77.